

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4674200060号		
法人名	社会福祉法人 伸志会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	鹿児島県 薩摩川内市 祁答院町 藺牟田 2103番地 6 (電 話) 0996-31-8101		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年8月29日	評価確定日	平成21年9月19日

【情報提供票より】 (平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤16人 非常勤2人 常勤換算17.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1 階建ての ～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	11 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.2 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴田中央病院 クリニックのぞみ やなぎた歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑豊かな山と田園風景が広がる自然に囲まれた環境の中に設置されている。隣接して医療機関や認知症通所介護事業所・特別養護老人ホームがあり、医療福祉面でも協力体制が確立されている。入居者は温泉入浴を楽しんだり、藺牟田池へドライブしたり、週1回の買い物や調理を職員と一緒にしたりしている。また地域の方と交流を持ちながら、特別養護老人ホームの行事にも参加し、生き生きと過ごしている。管理者・職員は「笑顔あふれる楽しいホーム」を目指して、入居者が楽しくのんびりと過ごしてほしいとチームワークで取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念は、地域密着型サービスを含めた見直しを行い、改善されている。職員を育てるしくみと、同業者との交流を通じた向上については、現在も取り組みの段階にある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で評価を行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても、検討し改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回会議を開催し、入居者の状況や活動報告・外部評価の結果を皆で話し合い、意見や要望を聞いている。地域の子どもたちとの交流や講演会の情報提供などがあり、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や新年会、家族会の機会を利用し、何でも話してもらえるよう声かけを行っている。出された意見は、話し合いを持ち運営に反映できるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接の医療機関や通所介護事業所の利用者との交流のほか、同法人主催の行事に参加し交流を図っている。地域の「たのもし会」のメンバーが月1回ボランティアで訪問している。中学・高校・大学の実習生の受け入れを行ったり、保育園児と七夕の飾り付けを一緒にする等、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを含めた理念の見直しを行い、「長い人生を生きてこられた方々の意志と自由を尊重し、住み慣れた地域の方々との交流を持ちながら、ご家族の心に立った安らぎのある快適な生活をお手伝いします」という独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念の唱和を行い理解を含めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。また1年間の目標を皆で話し合い「今日の笑顔に喜び、昨日の元気に感謝」をモットーに実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内の施設の利用者との交流のほか、特別養護老人ホームの行事に参加し交流を図っている。また、地域のボランティアが月1回訪問している。中学・高校・大学の実習生受け入れを行うほか、保育園児と七夕の飾り付けを一緒にする等の交流がみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価を行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても検討改善の取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、入居者の状況や活動報告・外部評価の結果を皆で話し合ったり意見や要望を聞いている。地域の子どもたちとの交流や、講演会の情報などが提供され、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と入居者の状況について情報交換を行い連携を図っている。運営推進会議でも、行政や地域包括支援センターの職員から情報を聞いたり、困難事例の提供をしてもらい検討を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時やホーム便りで、入居者の暮らしぶりや近況報告をしている。遠方の家族にはメールや手紙で個別に報告を行っている。金銭管理に関しては出納・領収書などの報告を家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に直接話す機会を持ち、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。新年会・家族会等で意見を出してもらい、運営に反映できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず異動があった場合は、2～4週間のベテラン職員と一緒に勤務する準備期間を設け入居者のダメージを防ぎ、馴染みの関係を重視したケアを行いながら信頼関係を築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人内研修と医師による医療の勉強会を行っている。ケア会議の中でケアの基本についての勉強会は行っているが、年間の研修計画や段階別研修がなく、外部研修参加の機会が少ない。	○	段階別研修などの年間計画を立て、職員育成に取り組まれる事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水、伊佐グループホーム連絡協議会に加入し研修会もあるが、遠方での主催時は参加率も少なく、ネットワーク作りや同業者との交流はこれからである。	○	地域の同業者と交流する機会を作り、相互訪問等の活動を通じた向上への取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には職員が自宅まで出向き本人と懇談したり、本人や家族に来所してもらい、ホームの見学や場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。親睦を深めながら安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、梅干し、ちまきの作り方を教わったり、料理や畑仕事・洗たく・掃除など、日々の生活の中で一緒に行いながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、できるだけ叶えられるよう心がけている。一緒に外出したり、買い物に出かけたり、チラシの折り紙で箱作りをする等、個別に対応しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・関係者から意見や希望を聞き、職員の意見を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス計画を月1回のスタッフ会議で見直し、特に重要視する部分は赤字で表示し、翌月の会議で評価している。定期的な見直しは6ヶ月毎に行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い、通院支援や墓参り・外出等の送迎支援を行っている。また、宿泊希望の家族には寝具や食事を提供するなど、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にはホームでは看取りができない方針を説明し、希望者には特別養護老人ホームの申し込みをしてもらっている。医療処置が必要な場合の医療機関との連携も確立されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者のプライドを傷つけたり、プライバシーを損ねないような言葉づかいや声かけの仕方・支援方法に留意している。不適切な場面ではその都度職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態やその日の気分を大切にし、食事や入浴の時間をずらしたり、散歩・外出の支援をする等、本人のペースに合わせ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のレベルに応じて、野菜の下ごしらえ・盛り付け・片付けなど一緒に行っている。週1回はクッキングデイを設け、食べたいメニューを決め一緒に買い物に行き、調理をしながら食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉がひかれているため毎日入浴可能である。隣接の医療機関の大浴場で入浴を楽しむこともできる。入浴回避の利用者にはタイミングをみて声かけを行い、週3回は入浴するよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や希望を考慮しながら、調理・園芸・梅干し漬け・切り干し大根やちまき作り等を行っている。また三味線弾きやぬり絵など生活を楽しめるよう支援している。ボランティアの訪問も楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や週1回の買い物・蘭牟田池へドライブに行き白鳥にエサをやること・花見・外食に出かけるなど、外出の機会を多く作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと心配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、夜間想定訓練と月1回通報訓練も実施している。近所に民家が少ない為、特別養護老人ホームの職員との協力体制もできている。災害時の備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。食事の摂取状況に合わせて食事形態を工夫したり、入浴後の補水や夜間ペットボトルに飲料水を用意し支援している。母体法人の栄養士に月に2回献立をみてもらい栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはベンチがあり、季節の花が植えられたプランターが置かれ、裏庭には野菜畑がある。居間にはソファがあり花が飾られ、入居者の手作りの作品も展示されている。ゆったりと居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には手すりがついていたり、すだれを利用し光の調節や外から見えない配慮をしている居室もある。テレビやダンス・テーブル・椅子・家族の写真などが持ち込まれ、居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。